

子どもの居場所について

Q 家庭・学校以外での子どもの居場所、学校に行きたくない時に受け入れてくれる場所が必要だと思えます。また、子どもを社会全体で育てる仕組みを作り、子どもを安心して産み育てられるまちにしたいです。

A 学校に行きたくない時に受け入れてくれる場所としては、学校教育サポートセンター内に「スマイル教室」があります。また、放課後に利用できる公的な場所としては、児童館や公民館、図書館などがあり、各館とも利用しやすい環境づくりに努めております。

民間が運営する居場所としては、子ども食堂やフリースクール、自立援助ホームなどが挙げられます。そのような活動を志す団体がありましたら、積極的に育成支援してまいりたいと考えております。

今後も、地域社会全体で子育てを応援する仕組みづくりに努めますとともに、出産から子育て、教育まで、切れ目のない子育て支援に力を入れ取り組んでまいります。

休み期間中の中高生の学習の場について

Q 中学生・高校生の夏季休暇等の間、図書館の休館日には、中高生の学習の場がなくなってしまう様子が見受けられます。図書館の学習室に限定しても結構ですので、休み期間中は全日開けていただければと思います。

A 子どもたちの学びの場を保障することは大変大切なことであります。そこで、すべての公民館には、机・椅子などを置き、子どもたちの学びのスペースを設置しております。特に、石橋公民館におきましては、一人ひとりが個別に学習できるスペース、自由にレイアウトを変えられて集団で学びを図れるスペースがございます。

また、すべての中学校、南河内小中学校後期課程の夏休みに、「いきいき学び塾」と題しまして、学校教育サポートセンターの職員が学校に出向き、図書室などを利用して自習をし、必要に応じて職員が子どもたちの質

問に答えるといった学びの場を設けています。

どちらも周知に関しては今後積極的に行っていかなければならないと考えており、子どもたちが学びの場を活用できるように努めてまいります。

事務事業評価の公表について

Q 納税者への情報公開と説明責任から、下野市の全事務事業の詳細な内容とコストが書かれた事務事業評価シートを、コスト削減とデジタル社会の時代の要請にあわせ、受け手が収取選択できるようインターネットでの公開をお願いします。

A 本市の事務事業評価の結果につきましては、これまで、閲覧のしやすさを考慮したうえで、事業名、概要、計画、評価項目ごとの判定、評価結果などを一覧形式にて公表してまいりましたが、今後、全シートの公開に向けて検討を進めてまいります。

EVの急速充電器の整備について

Q EVの急速充電器は、本市には道の駅にある以外どこにも見あたりません。EV購入補助金も少し出るようですが、インフラ整備ができていないので、利用者の使いやすい施設を早急に多数作っていただき、SDGsに向けて頑張ってくださいますようお願いいたします。

A 本市は令和2年度より、電気自動車10万円、PHV(プラグインハイブリッド)5万円の一部補助をしております。

今後、2050年までに二酸化炭素排出ゼロ、脱炭素社会の実現を目指し、「省エネ・脱炭素型コンパクトシティ」の構築に向け、次世代自動車用のインフラ充実が必要不可欠なものと考えております。

道の駅しもつけに設置している既存の急速充電器は、対応の機種に更新するため、国に補助金申請

を行っているところであり、今後も他の公共施設への導入について検討してまいります。

市として力を入れている取組と課題について

Q 色々な政策がある中で、市として特に力を入れている取組は何か、そして特に頑張っていかなければならないと考えている課題があれば、教えていただきたいです。

A 人口減少の状況においても、本市の人口はわずかですが増えております。下野市の住みやすさと価値を証明し、さらに人や企業に選ばれるまちづくりを進めていきたいと考えております。

製造、雇用、投資につながる企業に選ばれるまちとして、産業界や企業の誘致に力を入れてまいります。

また、医療に恵まれている地域なので、その良さを伸ばし、下野市だからこそ受けられる医療を確立し、全国から注目されるよう取り組むとともに、子育て政策にも力を入れてまいります。

課題としては、市役所周辺や駅周辺にも未利用地があり、発展する可能性があるため、有効な土地利用を進めていきたいと考えております。

